

## 日本気象学会「創立125周年記念事業」について

125周年記念事業実行委員会

社団法人日本気象学会は、その前身である「東京気象学会」の1882年の設立から数えて125周年に当たる2007年を控え、前の第33期理事会において「125周年記念事業準備委員会」を設置して記念事業の実施に係る検討を始め、引き続き2006年4月からは同実行委員会に改組して、具体的な事業内容の検討を進めてきた。その結果、以下に掲げるように、記念式典および記念シンポジウムを開催するほか、学会機関誌などで記念特集を発刊することとした。

### 1. 記念式典

2007年5月の春季大会第2日目に、125周年記念式典を挙げる。

### 2. 記念シンポジウムの開催

2007年5月の春季大会第2日目に、次世代の研究の方向などを示唆する記念シンポジウムを開催する。シンポジウムでは、国内から2、3名、外国から Dr. G. Brasseur (National Center for Atmospheric Research: 米国) および Dr. J. F. B. Mitchell (Hadley Center for Climate Prediction and Research: 英国) の講演を内定している。なお、このシンポジウムは大会参加者を対象に英語で行われる。

### 3. 「天気」への記念解説の掲載および既刊号の電子媒体化

(1) 2007年1月号から1年間にわたり、通常号の中で、毎月4編の主要な研究テーマやトピックスなどに関する分かりやすい記念解説(1テーマあた

り原則として4ページ)を掲載する。

(2) 第1巻(1954年)から第52巻(2005年)までのバックナンバーの電子媒体(pdf)化を行い、2007年4月から学会ホームページで閲覧に供する予定である。

### 4. 「気象集誌」特集号の発行および既刊号の電子媒体化

(1) 主要な研究テーマに関してレビューした「特別号」を発行する。テーマは現在のホットな研究も含む約20テーマ(1テーマ5ページ程度)とし、2007年5月に発刊の予定である。

(2) 第1巻(1882年)からのバックナンバーの電子媒体(pdf)化を行う。既に第1巻について完了し、閲覧が可能となっている。今後、順次、作業を進める。なお、この事業はJST(科学技術振興機構)のご協力により実施される。

### 5. 「気象研究ノート」特集号の発行

「次世代に伝えたいこと」(第1部)および比較的大きなプロジェクトを対象とする「大規模プロジェクト」(第2部)からなる特集号を、通常の発行スケジュールの中で刊行する。第1部は、研究・教育・気象サービスなどに携わった会員からの個人史や提言(1人あたり5ページ以内)で構成し、約30名の執筆者を内定している。第2部は、10プロジェクト(1プロジェクトあたり10ページ程度)で構成される。発刊は2007年5月の予定である。